

新年を迎えて

分所長 高木敏彦

新年あけましておめでと〜うございます。甲辰の令和六年、令和五六七(みろく)の二年目が始まります。振り返りますと昨年は大本神諭「いづのめしんゆ、靈界物語(一巻)拝読と大本の原点に回帰して開教の精神を自覚する年であり、また長生殿前の土地入手で、令和七年の綾の聖地歌祭り開催を期す年となりました。今年は大本の教えの精神を体現させるように努めることを求められているのではないでしょうか。

「三ぜん世界一同に開く梅花の 良の金神の世に成りたぞよ」

寒い時期ですので、お体に気を付けて、人型宣教にお励みください。

50年前の思い出

藤浦 直

今から49年前 一九七五年(昭和五〇年三月一二日) ニューヨーク聖ヨハネ大聖堂を齋場として、齋主出口虎雄先生のもと「出口王仁三郎とその一門の芸術展奉告祭」が大聖堂の十字架前の最高祭壇で執り行われた。

聖ヨハネ大聖堂は大本開教の年一八九二年(明治二五年)に建設が始まり、二〇〇年計画で現在も建設は継続中であり、【未完成の聖ヨ

ハネ】とのニックネームがつけられているが完成すれば世界最大のゴシック聖堂となる。建物全体を上から見れば十字架の形状をしており、その最高祭壇の奥、一段高い処に「ハイ・オルター」と呼ばれる幅3.6メートル高さ1メートルの白い大理石造りの聖壇があり、白地に赤の縦じまの入ったクロスが掛けられている。最高祭壇の左右には聖堂の第一期完成を祝って日本の皇室から贈られたという高さ1メートルの七宝の花瓶が飾られていた。

午後四時に白木の八足のローソクに明かりが灯りすべての準備が整った。伶人が最高祭壇右手特設された席につき、それと前後してモートン聖堂長とマン神父が昇殿し祭壇左の座について。最高祭壇から一段下がった聖歌台の席にはフランク博士夫妻ほか、大本関係者と森本部長を団長とする訪米団七〇余名、さらに一〇数名の聖堂関係者が座を占めていた。司会の梅田善美氏が「祭員入殿」と発声し祭典が始まった。八雲琴の音が堂内に響く中、出口虎雄齋主以下七人の祭員が入殿した。この七人の祭員の中には碧南分所の奥谷徳市氏と私が務めさせて頂いた。三月のニューヨークは寒かったが、八雲琴の音の響きに従い正中を通って行くうちに自分の体が暖かくなり、まるでエンゼルが上から見ているような不思議な体験だった。

今振り返るとその場に参加させて頂いた事自体が奇跡のような体験であり、思い出しても夢のようです。今年は無気になりニューヨークのヨハネ大聖堂に再訪したいものです。

主な行事予定

令和6年

1月1日(月) 午前9時

碧南分所元旦祭 午前十一時より 第2

三河本苑新年祭 午前十一時より 第2

ブロック当番 午後1時半より

1月14日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭 担当第1班

1月21日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭 七草粥

1月29日(月) 高木宅まで

人型締め切り 2月3日(土)

節分大祭 2月11日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭 担当第2班

2月18日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭・分所、支部長研修会

2月24・5日(土・日)

教本3級認定講習会

1月の誕生者

おめでと〜うございます！

鈴木 佐保乃 8日 生田 吉治 14日 鈴木

紋子 18日 藤浦 ふじ子 20日 安藤 香春

25日 久野 芳紀 坂野 唯 30日